

# 初等中等教育におけるポートフォリオを活用したキャリア教育の現状と課題 —学びの継続性、時間的展望、発展性と学びの評価の観点からの考察を通して—

清水 克博\* 胡田 裕教\*\* 角田 寛明\*\*\*

\*学校教育講座 \*\*名古屋大学大学院生 \*\*\*名古屋大学大学院科目履修生

## The Current Situation and Issues of Using of Portfolios in Career Education in the Elementary and Secondary Education : Through consideration from the viewpoint of continuity of learning, development, time perspective and evaluation of learning

Katsuhiro SHIMIZU\* Hiroyuki EBITA\*\* Hiroaki TSUNODA\*\*\*

\* *Department of School Education, Aichi University of Education*

\*\* *Graduate Student, The Graduate School of Nagoya University*

\*\*\* *Course Student, The Graduate School of Nagoya University*

### 要約

本稿の目的は、初等中等教育のキャリア教育において用いられるポートフォリオの現状と課題を、校種を超えた「学びの継続性」、学びを過去・現在・未来の視点で考える「学びの時間的展望」、学びをまとめ次の学びにつながる「学びの発展性」と、「学びの発展性」を実現するために必要な学習者のための「学びの評価」の視点から明らかにすることにある。

この目的を果たすために、2019年9月までに都道府県政令指定都市中核都市の教育委員会、教育研究所、教育センターで公表されたキャリア教育に関する研究を管見し、それらの中で用いられたポートフォリオを評価した。その結果、中央教育審議会が「キャリア・パスポート」(2016)の考えを示した時期を前後して、校種を超えた「学びの継続性」を図り、キャリア教育としての学びをまとめ、自己の学習成果の内省につなげるまでの「学びの発展性」を果たすポートフォリオが、実践研究の中で多く開発されていることを確認することができた。しかし、学習者が「学びの発展性」を図る際に、自身の学びの過去と現在、未来という3つの時制を備えた「学びの時間的展望」の視点で学びを振り返る用意が多くのポートフォリオで十分ではないことが明らかとなった。さらに、学習者に「学びの発展性」を図るためには学習者自身の自己評価だけでなく、学級の仲間、教師、保護者といった学習者の学習過程や成果を知る身近な他者からの評価を根拠に自己の学びをまとめ、次に取り組む学習につながる学習者のための「学びの評価」の仕組みが必要であるが、公表されたキャリア教育の実践研究で使われるポートフォリオではこうした仕組みが不十分であることが明らかとなった。

キーワード：キャリア教育 ポートフォリオ 学びの継続性、時間的展望、発展性と学びの評価

### 1 問題の背景

中央教育審議会答申(1999)で「キャリア教育」という用語が登場して以降、日本の初等中等教育では職場体験学習(インターンシップ)や職業調べ、職業人による講話などがキャリア教育として行われている。

しかし、その内容を見ると職業観・勤労観の育成に焦点化したものが目立ち、実践の多くが同一の学校種内で終わっている。また、教科等の学びを取り扱った内容、校種を超えて学校間連携を図る実践はほとんど行われていないとの指摘がある(文部科学省,2011)。

すなわち、教育内容の面においては、職場体験学習、インターンシップ、職業調べ、職業人による講話など、勤労観・職業観の育成に焦点が当てられた実践が、同一学校種内で実践されているものの、校種を超えて継続的に取り組む「学びの継続性」にキャリア教育は課題が残ることを示したものである。また、児童生徒が教科等において行ったキャリア教育での学びを特別活動の時間を中心にまとめ、学びの成果を内省し、次の学びにつなげるキャリア教育の実践報告はほとんど見られない。キャリア教育として培ってきた教科等の学

びをまとめ、これを基に新たな学びにつなぐ「学びの発展性」でも初等中等教育で行われるキャリア教育は課題があると言えよう。このように初等中等教育におけるキャリア教育では、校種を超えて教科等の学びをキャリア教育として行えるようにする「学びの継続性」と、キャリア教育を通じて得た学習成果を児童生徒自らが内省し、価値形成を図るとともに学習成果から新たな学習課題を見つけて次の活動に取り組むことができるように学びをまとめ、新たな学びにつなげる「学びの発展性」を実現する上で、学習者の学習のための「学びの評価」を図ることがキャリア教育を推進していく上で不可欠である。

こうした課題を受け、「キャリア教育の中核となる教科の明確化の検討」(中央教育審議会,2011)では、特別活動の学級活動やホームルーム活動を初等中等教育それぞれのキャリア教育の中核として位置づけた上で、キャリア教育としての教科等での学びをまとめ、次の学びにつなげる場として示した。さらに「自身の学習、スキル、業績を実証するためのあらゆる成果を、ある目的のもと組織化・構造化しまとめた収集物」(ジョンズら,2006)であるポートフォリオを使って特別活動の時間を中核に教科等の学びをまとめ、その学びを内省し新たな学びにつなげることを実現させる意味で「キャリア・パスポート(仮称)」の活用を中央教育審議会は提言した(中央教育審議会,2016)。

この「キャリア・パスポート」を検討するにあたっては、「総合的な学習の時間」の創設時、特に小学校での学習成果を教師が評価する方法として示されたポートフォリオ研究(西岡,2003、堀,2013)は注目に値する。西岡は、ポートフォリオには学習の記録を日常的に蓄積するワーキング・ポートフォリオと蓄積した資料の中から取捨選択したり並べ替えたりして学びの過程を恒久保存するパーマネント・ポートフォリオがあると指摘する(西岡,2003)。そして、2つのポートフォリオの役割の違いを意識した上で、この2つを使い分けて「総合的な学習の時間」での学びを蓄積し、整理して学習者自身に内省させることが学習者自身の学びに対する評価力を生むとしている(西岡,2003)。また、堀はOPPAを提案し、パーマネント・ポートフォリオとしての機能を1枚にまとめ(OPP)、これを評価することで学習者の学びの変遷を学習者自身にとらえさせ内省を深めることを示した(堀,2013)。

中央教育審議会の提言した「キャリア・パスポート」も、キャリア教育の活動において児童生徒自身の学びの過程を累積記録するワーキング・ポートフォリオを基に、学びを通じた自己の成長の内省を経て気づかせ、さらなる成長を目指す新たな学びを見いだすためにパーマネント・ポートフォリオを活用することでキャリア形成を図ることを目指した動きであると言えよう。したがって、キャリア教育においてポートフォリオを活用する際にワーキング・ポートフォリオとパーマネント・ポートフォリオという異なる意味があることを

意識し、役割の違いを考慮しながら「キャリア・パスポート」してポートフォリオを準備することが必要である。そして、キャリア教育としての教科等の学びをまとめて次の学びにつなぐには、キャリア教育の学習成果をまとめたワーキング・ポートフォリオを根拠に、学習者が重要であると位置づけた学びをパーマネント・ポートフォリオにまとめ、学びについての学習者の内省を図る工夫が不可欠である。

しかしながら、「キャリア教育」「ポートフォリオ」というキーワードを手がかりに「キャリア教育研究」(日本キャリア教育学会)等を検索してもキャリア教育に関係するポートフォリオに視点を当てて検討した研究は、筆者らの先行研究(胡田ら,2018)以外見当たらない。また、ポートフォリオを用いてキャリア教育の学びをまとめ、内省を深めたうえで次の学びにつなぐ方法を検討されているとは言い難い。キャリア教育に用いるポートフォリオに必要な要素とそれを基に構成したポートフォリオの活用のあり方を検討することはキャリア教育を進める上で重要であるといえる。

## 2 研究の目的

前述の研究背景を基に本研究では、キャリア形成を図るためのポートフォリオに焦点を当て、キャリア教育で用いられているポートフォリオの現状とそこに内在する課題を教育方法学の視座から調査する。筆者らはすでに2015年度以前のキャリア教育に用いられたポートフォリオの現状を明らかにした(胡田ら,2018)。しかし、「キャリア・パスポート」の考えが中央教育審議会から提示された2016年度以降、キャリア教育の実践において「キャリア・パスポート」の考えが影響し、初等中等教育において実践が大きく変化したことが予見される。そこで、2016年度から2019年9月までに初等中等教育のキャリア教育で用いられたポートフォリオを改めて調査し、現状と課題を明らかにする。その上で、ポートフォリオを活用した授業方法の改善を図るための方向性を提言することを目的とする。具体的な目的としては、以下の3つを設定する。

① 2016年度以降に公開された初等中等教育におけるキャリア教育に関する実践研究の調査結果を行い、ポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究の実情を明らかにする。

② 「学びの継続性」「学びの発展性」「学びの時間的展望」を視点としたキャリア教育を推進するために必要なポートフォリオの視点を検討し、検討した分析視点をを用いて①で明らかになったキャリア教育におけるポートフォリオの意味と現状を明らかにする。

③ 「学びの発展性」に不可欠な学習者自身のための「学びの評価」についての視点を検討し、②で分析した「学びの発展性」とどのような関連性をもつか、それがキャリア教育に用いるポートフォリオにどのように位置づけられているか現状を明らかにする。

なお、本研究の分析視点である「学びの継続性」は、

先行研究(胡田ら,2018)の概念を受け継ぐ。具体的にはキャリア教育の一つ一つの取り組みが単発的で断片的にならないように、時間、学期、学年・校種を超えて連続または接続していることを意味する。また、「学びの発展性」は児童生徒の内省による自己の価値観形成を伴った学びのまとめで終わっているものと、学びのまとめを起点に新たな学びにつながっているかといった学びの展開の程度の差を意味する。先行研究では、発展性としてとらえる視点として内省の深さを意味したが、内省の程度の差を判別するのに評価者により判断の差があることを排除できなかった。また、自らの学びを十分に内省した児童生徒は、内省を起点に新たな学びが生まれ取り組んでいる事実を確認したことから意味を変更する。

「学びの時間的展望」「学びの評価」は、新たに付け加えた視点である。「学びの時間的展望」は、学びをまとめ、新たな学びにつなぐ際に、学習者が過去から現在の時間的な枠組みで自己の学びをまとめ内省するとともに、内省を基に将来への見通しをもって新たな学びを見出すという「過去・現在・未来」に渡る時間的な枠組み(胡田,2018)で学習者が自己の学びをまとめ、つなぐことを意味する。「学びの評価」は、学習者のための学習の評価である。学習者は自己の学びをまとめる過程で内省し、学びの達成の程度を評価し、次の学びを判断する。しかし、学びを評価・判断する場合、妥当性を検証するリソースは学習者個人だけでは不十分である。これを補うには「建設的な相互作用の基本形」(国立教育政策研究所,2106年)として示されたように自分の学びの評価と判断を他人に分かってもらおうと説明する過程で自分とは異なる他者から見た視点の存在に気付き、より一般的な視点から自分の学びを見直し、評価・判断することができるようにする活動が必要である。そのためには、級友、教師、保護者といった学習者の取り組みをよく知る身近な人によるモニタリングとしての他者評価が有用である。この他者評価を自己評価に加えることで「建設的な相互作用の基本形」が「学びの評価」で成立し、学習者は自己の学びをまとめ、つなぐための内省が可能となり「学びの発展性」を確保できる。こうした意味で「学びの評価」は、「学びの発展性」に連関する活動であると言える。

### 3 研究方法

研究目的①を達成するため、文部科学省の都道府県政令指定都市中核都市等一覧<sup>※1</sup>を参考に47都道府県20政令指定都市37中核都市の教育委員会、教育センター、教育研究所のホームページを検索し、公開されている初等中等教育の実践研究のうち、2016年度以降のキャリア教育に関する実践研究論文・報告書を管見する。それらの中から実際にポートフォリオを活用しているもの、ポートフォリオを用いた記述があるものを選定する。

研究目的②を達成するために「学びの継続性、学び

の時間的展望、学びの発展性」を促すポートフォリオに必要な視点を検討し、これを分析の枠組みにして、①で選定した実践研究論文・報告書内で示されたポートフォリオを分析し、現状と課題を明らかにする。すなわち、それぞれの基準を設定した上で各ポートフォリオの内容や形態の類型化を図り、可視化することで現状と課題を明らかにする。具体的には、「学びの継続性」は1回の時間で終わる単発の実践なのか(単発)、数時間をかけて行われる実践なのか(数時間)、学期内で完結する実践なのか(学期内)、学期を超えて同一学年内で完結する実践なのか(学期を超えた学年内)、学年を超えて行われる実践なのか(学年を超える)という一つの校種内で行われる実践、あるいは小学校から中学校、中学校から高等学校、小学校から中学校を経て高等学校まで校種を超える実践であるか(校種を超える)の6種類で検討する。また、「学びの時間的展望」は、現在を対象となる学びを行っている時間とし、その範囲は「学びの継続性」における(学期を超えた学年内)までを一連のこととしてとらえ、その範囲内の学びを「現在」とする。過去は、現在を起点にそれ以前の学び、未来は現在を起点にそれ以降の学びとする。この時間的枠組みを基に、実践を「現在」「過去—現在」「現在—未来」「過去」「過去—未来」「未来」「過去—現在—未来」の7つから検討する。「学びの発展性」は、学びのまとめやつなぎと内省との関係から検討する。つまり、「内省を伴わないもの」「学びのまとめに内省が伴うが、新たな学びのつなぎに内省を供わないもの」「学びのまとめと新たな学びのつなぎまで内省が伴うもの」という学びのまとめ、つなぎと内省との連関から検討する。以上を踏まえ、ポートフォリオの内容・形態について、横軸を「学びの発展性」とした3ブロックに、縦軸を「学びの継続性」として6ブロックにした計18ブロック(3×6)の細分化した座標平面を活用する。また、「学びの時間的展望」を座標平面に表すバブルの大きさの違いで表示し、類型化を図った。

研究目標③を達成するために「学びの評価」を学習者の学びのまとめと新たな学びのつなぎについて評価する評価者の立場の違いから検討した。具体的には、学習者が学びをまとめ、新たな学びにつなぐ際にどの立場の評価を参考にしたかという視点で、「自分」「仲間」「教師」「その他の他者(保護者を含む)」の4つの立場を考え、評価する立場がいくつあったか、1つ立場から4つの立場で分類し、分析した。なお「学びの発展性」は、研究目標②を達成する際に設定した基準をそのまま使用した。以上を踏まえ、ポートフォリオの内容・形態について横軸を「学びの発展性」とした3ブロック、縦軸を「学びの評価」とした4ブロックの計12ブロックに細分化した座標平面を活用して、分析結果の類型化を図ることにした。

## 4 研究結果と考察

### 4.1 調査結果と考察

#### 4.1.1 全国の実践研究の状況とポートフォリオを用いた実践研究

47 都道府県、20 政令指定都市、37 中核都市の教育委員会、教育センター、教育研究所において2016 年度以降に公開されたキャリア教育に関連する研究紀要等を管見した。2015 年度研究が公開されたのが2016 年度であるものを含め、キャリア教育に関する実践研究の論文・報告書は、都道府県関係が95 件、政令指定都市19 件、中核都市3 件の計117 件を確認できた。これらのうち教師用リーフレットや表題のみで実践内容を確認できないものを除くと、実践内容を確認できたものが都道府県で74 件、政令指定都市8 件、中核都市1 件の計83 件である。さらにポートフォリオが使用されている研究は51 件確認できた。

図1 は、先行研究で調査した2015 年度までのキャリア教育実践研究論文・報告数およびポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書の出現数に、今回の調査による2016 年度以降に公開された実践研究論文・報告書(含む2015 年度研究)の出現数を加えて、その出現傾向の変容を表したグラフである。グラフに見るように2015 年度前後からキャリア教育実践研究論文・報告数が増加している。ポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書の出現傾向を見ても、2016 年度を境にポートフォリオを活用した研究が急激に全国の初等中等教育において蓄積し始めている。特に2016 年度に公開されたキャリア教育の研究48 本のうち、24 本がポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書で、その割合は全体の50.0%である。

前年度(2015)が26.9%(28 件中7 件)であったことから比較しても、キャリア・パスポート(仮称)が示された2016 年度を境にキャリア教育に関する実践研究の中でポートフォリオに関する研究が進んだと言える。

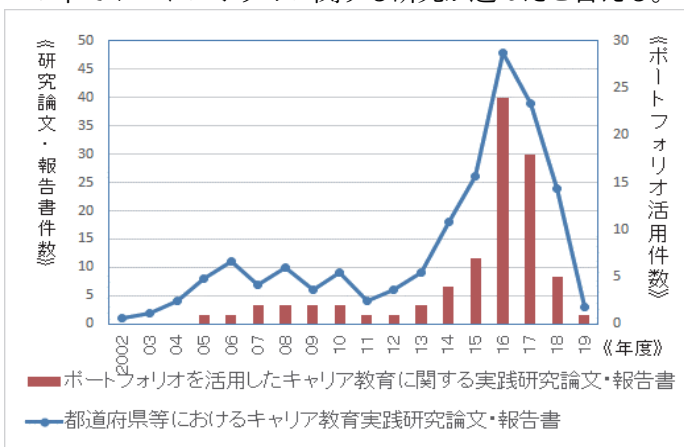


図1. 都道府県等におけるキャリア教育実践研究論文・報告書とポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書の出現変容

#### 4.1.2 「学びの継続性」「学びの時間的展望」「学びの発展性」から見るポートフォリオの現状

表1 は、2016 年度以降のポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書51 件の内容を示したものである。これらを「学びの継続性」「学びの時間的展望」「学びの発展性」の視点を用いて分析を行った。具体的には、ポートフォリオの内容・形態について横軸を「発展性の程度」、縦軸を「継続性」と

表1 2016 年度以降のポートフォリオを活用したキャリア教育に関する実践研究論文・報告書一覧

No	バブル上の記号	実践単位	種別	研究名	年度	研究概要	
1	小中高②	b2	県	小学校 中学校 高等学校	マイノート	H30	小学校(低学年)(中学年)(高学年)、中学校、高等学校(1,2年用)、高等学校(2・3年用)の6種類から構成されるキャリア教育用ポートフォリオ(マイノート)を開発。
2	高①		県	高等学校	「高等学校における探究活動の充実に向けて一進学校における『総合的な探究の時間』の導入に向けた	H29- H30	高等学校、とりわけ普通科進学校の総合的な学習の時間において生徒の主体的な探究活動の導入・推進を目指した学校経営に資する研究を行う。H29は中間報告、H30に最終報告。探究活動を導入・推進するためのポイントの整理、探究活動の導入・推進に資する資料の作成(指導計画、評価資料等)
3	小中①	a1	県	小学校 中学校 高等学校	キャリア教育実践報告書	H29	小学校の実践例(ドリームファイル)を基に地域・家庭と「横のつながり」、学校間での「縦のつながり」紹介 小中学校はDe・ドリーム、高等学校はMy Memory
4	小中⑥	a6	市	小学校 中学校	中学校区によるキャリア教育実践報告書	H29	キャリアシート(子供用、教師用)と学びつなぎシート(子供用)を用意。ワンポート・ポートフォリオにまとめた6つの目標の姿に対して、学習時期(12か月)に縦じら込んだキャリアシートを定期的に振り返りながら、該当する目標の姿に教科・単元名を記入し6つの姿の成長を可視化
5	高②		学校	高等学校 (特別支援)	学習指導案「自分の将来をデザインしてみよう」	H30	特別支援学校の生徒が作成する「myプランシート」を使って卒業生の「実体験」から、生徒が友達との対話を通して思考
6	高③		県	高等学校	「『見方・考え方』を働かせた『深い学び』の実現を目指した高等学校における授業実践-」	H29	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。本研究は、各教科等の「見方・考え方」を働かせた「深い学び」に着目し、県立高等学校で三つの授業実践を行い、「深い学び」を実現する授業のイメージを示す
7	高④		県	高等学校	「探究プロセスを意識した授業改善に関する研究-高校の総合的な学習の時間における単元計画の作成-」	H29	研究協力校における現状を把握し、学習規律を確立させた上で、単元の目標、本時の目標を明確にし、『言語活動』を要とした授業を展開し、生徒が互いを認め合う学習態度や学び合う態度を養い、「主体的・対話的で深い学び」の視点で教科の目標を達成することを目的とする。
8	小①		県	小学校 (低学年)	資質・能力シート	H28	郷土愛、かかわる力、みつめる力、やり抜く力、ゆめをおこす力で構成。テーマに沿って1年を振り返る欄と保護者、教師からの対話記録欄がある。
9	小②		県	小学校 (中学年)	資質・能力シート	H28	郷土愛、かかわる力、みつめる力、やり抜く力、夢をおこす力で構成。郷土、かかわりは3部、みつめる、夢は2部、やりぬくは1部構成、全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。
10	小③		県	小学校 (高学年)	資質・能力シート	H28	郷土愛、かかわる力、見つめる力、やり抜く力、夢をおこす力で構成。全てのシートでまずテーマに基づく現状の振り返り、学びの内省、将来展望の3部構成。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。

初等中等教育におけるポートフォリオを活用したキャリア教育の現状と課題

No	バブル上の記号	実践単位	種別	研究名	年度	研究概要	
11	中①	県	中学校	資質・能力シート	H28	郷土愛の愛着を人間関係・社会形成能力・自己管理能力・課題対応能力・郷土への愛着、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力の5部から成るシート。全てのシートでまずテーマに基づく現状の振り返り、学びの内省、将来展望の3部構成。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
12	高⑤	県	高等学校	資質・能力シート	H28	自己理解・自己管理能力、課題対応能力、郷土への愛着、人間関係・社会形成能力、キャリアプランニング能力の5部から成るシート。全てのシートでまずテーマに基づく現状の振り返り、学びの内省、将来展望の3部構成。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
13	小④	県	小学校 (低学年)	活動記録シート	H28	見学1、2、ジョブチャレンジ、子ども参観日の4部構成。見学1は、見学先での学習目的を4項目で書かせる。見学2は1を基に自己の将来像を絵で描かせる。ジョブチャレンジは自分のした仕事を絵や文章で記述。参観日は家族への仕事の聞き取り。最後にどのシートにも保護者、教師からの対話記録欄がある。	
14	小⑤	県	小学校 (中学年)	活動記録シート	H28	見学1、2、3、ジョブチャレンジ、子ども参観日の4部構成。見学1は、見学先での学習目的を4項目で書かせる。見学2は見学記録、見学3は見学1の内省とそれを基に自己の将来像を4部構成。ジョブチャレンジは自分のした仕事とその内省。参観日は家族への仕事の聞き取りと自分の体験との比較、参観結果からの内省。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
15	小⑥	県	小学校 (高学年)	活動記録シート	H28	職場体験活動1、2、3、ジョブチャレンジ、子ども参観日の4部構成。職場体験1は体験先の情報や学びの目的など5部構成。体験2は1日の活動記録、内省、明日の決意の3部構成。体験3は体験全体の内省と将来展望などの4部構成。ジョブチャレンジは、自分のした仕事とその内省、将来展望などの4部構成。参観日は家族への仕事の聞き取りと自分の体験との比較、参観結果からの内省。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
16	中②	県	中学校	活動記録シート	H28	職場体験活動1、2、3、ジョブチャレンジ、子ども参観日の4部構成。職場体験1は体験先の情報や学びの目的など5部構成。体験2は1日の活動記録、内省、明日の決意の3部構成。体験3は体験全体の内省と将来展望などの4部構成。ジョブチャレンジは、自分のした仕事とその内省、将来展望などの4部構成。参観日は家族への仕事の聞き取りと自分の体験との比較、参観結果からの内省。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
17	高⑥	県	高等学校	活動記録シート	H28	インターシップ1、2、3、キャリアカウンセリング、家族との対話の4部構成。インターシップ1は体験先の情報や学びの目的など5部構成。インターシップ2は1日の活動記録、内省、明日の決意の3部構成。インターシップ3は体験全体の内省と将来展望などの4部構成。キャリアカウンセリングは、話したいこと、話合い記録、内省の3部構成。家族との対話は話したいこと、話合い記録、内省の3部構成。全てのシートに最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
18	小⑦	県	小学校 (低学年)	夢ナビシート	H28	未来の予想、内省、将来展望の3部構成。未来は大人になった時を絵や文章で記述、内省は1年の振り返り、将来はこれからがんばりたいことを記述。最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
19	小⑧	県	小学校 (中学年)	夢ナビシート	H28	未来、自己理解、内省、将来展望の4部構成。未来については将来の夢・目標。自己理解は自己PR。内省は将来の夢・目標につながる自己の活動の振り返り。将来展望は、これからの取り組みを記述。最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
20	小⑨	県	小学校 (高学年)	夢ナビシート	H28	未来、自己理解、内省、将来展望の4部構成。未来については将来の夢・目標。自己理解は自己PR。内省は将来の夢・目標につながる自己の活動の振り返り。将来展望は、これからの取り組みを記述。最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
21	中③	県	中学校	夢ナビシート	H28	未来、自己理解、内省、将来展望の4部構成。未来については将来の夢・目標。自己理解は自己PR。内省は将来の夢・目標につながる自己の活動の振り返り。将来展望は、これからの取り組みを記述。最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
22	高⑦	県	高等学校	夢ナビシート	H28	未来、自己理解、内省、将来展望の4部構成。未来については将来の夢・目標。自己理解は自己PR。内省は将来の夢・目標につながる自己の活動の振り返り。将来展望は、これからの取り組みを記述。最後に保護者、教師からの対話記録欄がある。	
23	小⑩	個人	小学校	「自己の生き方を見つめる教科横断型カリキュラムの実践」	H29	小6を対象。道徳、総合、国語の教科・単元における読書学習で、実在する人物の生き方や物語の登場人物の生き方、クラスの仲間や自分、自己の生き方を比べ、自己の生き方について思考を深める。自己の生き方を考える教科横断型カリキュラム「自分の生き方について考えよう」は有用であると考へた。振り返りシート利用(作業テーマ:自分の生き方を振り返る。これからの生き方を考える)	
24	高⑧	個人	高等学校	「生徒の意欲を引き出す『キャリア教育』を意識した実践研究ーホーム担任』『授業者』双方の立場からー」	H29	「ホーム担任」としては主にホームルーム活動と面談を通して、生徒たちの「自己分析」「自己理解」そして「自己実現」を支える。また、「授業者」としては従来の授業の中でキャリア教育を意識して行う。文章に対して生徒自身が考えを持って他者と共有し、筆者の考えや登場人物の心情・作者の生涯を学びながら、生徒一人一人が自分の生き方や内面を見つめる授業をする。これら2つの立場から実践し分析していく	
25	高⑨	学校	高等学校	「進学希望者が多い普通科高校におけるキャリア教育の充実に向けてー入学から分進選択までの進路指導ー」	H28	文理選択に焦点を当て、進学校におけるキャリア教育の在り方を考えた上で、所属校の取組をもとにしながら、入学から文理選択までの有効な進路指導計画案を示す。「文理選択シート(面接記録シート)」	
26	小⑪	県	小学校	小学校版キャリアノート「夢の手帖」	H29	「夢の手帖」活用版見直し。「他者との関わり」という視点から「過去、現在、未来」という時間的なつながりにおける自己の変容を検証するための、「振り返りと目標設定」を「さらりアップタイム」と「キャリアカウンセリング」で深める自立活動の実践を行う。	
27	中④	県	中学校	中学校版キャリアノート「夢の手帖」	H29	「夢の手帖」活用版見直し。「他者との関わり」という視点から「過去、現在、未来」という時間的なつながりにおける自己の変容を検証するための、「振り返りと目標設定」を「さらりアップタイム」と「キャリアカウンセリング」で深める自立活動の実践を行う。	
28	高⑩	県	高等学校	高等学校版キャリアノート「夢の手帖」	H29	「夢の手帖」活用版見直し。「他者との関わり」という視点から「過去、現在、未来」という時間的なつながりにおける自己の変容を検証するための、「振り返りと目標設定」を「さらりアップタイム」と「キャリアカウンセリング」で深める自立活動の実践を行う。	
29	小⑫	県	小学校	「『アクティブ・ラーニング』の視点を入れた授業実践を通したキャリア形成支援の有効性ー小学校の算数授業を事例にしてー」	H28	「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習過程の質的改善を掲げる府内小学校を対象に、授業の共通点を質的に検討。また、「アクティブ・ラーニング」の視点として、主体的・対話的で深い学びの姿について質的に検討する。	
30	小中⑦	a7	県	小学校 中学校	キャリア教育充実事業中間報告書	H31	特別活動を要にしたキャリア教育のあり方について小中学校指定校の実践研究を基に検討。実践報告は小学校2校を提示
31	小中②	a2	県	小学校 中学校	キャリアノート活用に関する研究事業報告書	H29	H27,H28年度におけるキャリアノートの作成の仕方、兵庫県体験教育でのキャリアノートの活用の仕方、保管方法、小中連携、幼保・高校連携、地域連携、ふるさと教育との関係。実践例 小12、中6。
32	小中⑧	a8	県	小学校 中学校	県キャリア・ノート	H27	小学校版、中学校版
33	小中⑨	a9	県	小学校 中学校	教師用指導資料	H27	小学校、中学校キャリア・ノート指導資料
34	小中⑩	a10	県	小学校 中学校	キャリアノート活用に関する研究事業報告書中間報告書	H28	H27年度における県キャリア・ノートを使用した小学校、中学校の実践の中間報告
35	小中高①	b1	県	小学校 中学校 高等学校	「学校の特色を生かした『キャリアノート』の効果的な活用ー高等学校での取組からー」	H30	高等学校における「キャリアノート」の活用状況を把握するとともに、5つの高等学校での取組から学校の特色を生かした効果的な活用について整理した。そして、「キャリアノート」を基盤として、中学校から高等学校へとつなぐ「キャリアノート」改善試案を作成し、高等学校における活用を提案。
36	小⑬	個人	小学校	「『課題対応能力』を育むキャリア教育の展開ー自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通してー」	H29	自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通して、「課題対応能力」を育むキャリア教育の展開について考察	
37	小⑭	個人	小学校	「総合的な学習の時間において主体的な学びを実現する指導の工夫ー探究のプロセスの中で見通しをもたせる振り返りシートの活用を通してー」	H28	探究のプロセスの中で見通しをもたせる振り返りシートの活用を通して、総合的な学習の時間において児童の主体的な学びを実現する指導の工夫について考察。児童に見通しをもたせるため、単元の流れに沿って自己調整学習の予見、遂行、自己内省の三つの段階を取り入れ、振り返りを生かした学習活動を行う。	
38	中⑤	個人	中学校	「自己実現を図ろうとする態度を育成するキャリア教育の展開ー学校の教育活動全体をつなぐ『キャリアノート』の活用を通してー」	H30	年度末のみ活用していた「キャリアノート」を、学校の教育活動全体を横断的につなぐ「キャリアノート」と系統的につなぐ「キャリアノート」に改善し、活用を図る。具体的にはキャリア教育の要である特別活動において、冬学期末の振り返りとして各教科等の活動を一元化した振り返りシートと自己の学びを振り返る過程に沿う「キャリアノート」を開発	
39	小中③	a3	個人	小学校 中学校	「児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方ー学校の特色を生かした『キャリアノート』の効果的な活用を通してー」	H29	現状を踏まえて「キャリアノート」の改善ポイントと内容を整理し、内容として【質問項目】【自己決定の場】【家庭との連携】【効果的なイラスト等】を取り入れ、活用においては【設問の意図】【組織的】【系統的】を明確にする。内容における改善のポイントを反映させた「キャリアノート」の改善試案を提案。
40	小⑮	県	小学校	「『キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善』についての研究ー協動的に課題を解決する経験を通じて、児童の自己決定力を育成するー」の効果的な活用を通してー」	H28	課題に関わる児童の意識の変容を授業記録やアンケートで見取り、児童の自己決定する力が向上するかの検証。その際、自分の問いを中心に探究的な学びを繰り返している「つながりシート」を活用し、学びの履歴を蓄積する。一時間ごとに「自分自身」で学びを振り返ったり課題の解決に向けて自分が行うべきことを考えたりする活動を実践。	

No	バブル上の記号	実践単位	種別	研究名	年度	研究概要
41	高⑪	県	高等学校	「キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善についての研究—普通高校におけるキャリア教育の推進及び充実に向けて—」	H28	総合的な学習の時間における「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながる要素の提案。
42	中⑥	県	中学校	「一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造—中学校国語科における学びが広がることを目指した「問い」と「振り返り」の工夫を通して—」	H29	振り返りの工夫を通して生徒自身の国語の力の高まりを実感させることで、生徒の自己効力感を向上させ、主体的な学びが実現できるようにする。
43	高⑫	個人	高等学校	「キャリアプランニング能力を高める指導の工夫—LHRにおける生徒同士の協働や社会人・大学生との対話的な交流活動を通して—」	H29	LHRにおいて、生徒同士の協働や社会人・大学生との対話的な交流活動を通して主体性や協働性をもって行動し、社会人や大学生から多種多様な生き方を学ぶことで将来設計に必要なキャリアプランニング能力を高める
44	高⑬	個人	高等学校	「自らの意見を形成し表現できる力を育む指導の工夫」	H29	意見を形成する活動。朝学習、SHR、授業の開始時など短い時間を利用してワークシートを作成し、意見を形成する基礎となる活動を行い、まとまった時間に活用することで、意見を形成する活動を行う。意見を形成するまでの過程を分割し、全員が参加することを目標にして実施。題材を身近なものにしたり新聞を利用したりすることで他の分野の題材でも応用化を図る。
45	小中④	a4	市	小学校 中学校	H29	教育課程全体を通じて全教職員が活用できる「キャリア教育ガイドブック」の改訂を行う。平成28年度に「キャリア教育ガイドブック」における文言の整理を行い、キャリア教育グランドデザイン例や年間指導計画例を作成し、また、小中9年間をつなぐ「キャリア・パスポート」も作成。「キャリア教育ガイドブック」の完成を目指す。
46	小中⑤	a5	市	小学校 中学校	H28	キャリア教育の中核的な実践の場としての特別活動の在り方について研究。「キャリア在り方、生き方ノート」の活用。
47	小⑯	個人	小学校	「夢を越えて生き方を考える—『総合的な学習の時間』を中心とした小学校でのキャリア教育の取り組み—」	H28	「夢を越えて、自分自身の生き方を考えながら人生を歩んでほしい」と1年間総合的な学習の時間を中心に実践した概要や成果を記載。
48	中⑦	市	中学校	「中学校生き方探究（キャリア）教育主体的にキャリア形成を図り、自学自習できる子どもを育てるための『将来を見通した学びを考える力』を育む活動プログラム例」	H27	各教科・領域の授業での取組を有機的につなぐための「生き方探究教育(キャリア教育)」の視点と子どもたちの家庭学習の習慣を育むために必要な視点を提示。
49	中⑧	個人	中学校	「自ら問いを立て学び続ける力の育成（2年次）—学校図書館との対話を通して（中学校社会科の授業を例に）—」	H28	子どもが自らの問いを連続させ、問いの質を変化させていき、その変化を子ども自身がメタ学習しながら学びを進めるサイクルを、学校図書館を活用して構築する実践。学習内容全体を俯瞰するため、教科書一単元の主なキーワードとする「分類ワークシート」と自分の考えを述べるため異なる図書資料の情報を複数組み合わせる「情報ワークシート」を使用しながら、自らの学習成果から問いを立てるシステムを明示する。
50	小⑰	個人	小学校	「各教科等における探究的な学習の展開(1年次)—主体的に問題と向き合い、学びを深める学習—」	H29	社会科、算数科において基礎的な探求から発展的な探求を主体的、対話的な学びにより、深い学びを目指す実践。キャリア進路ノートとして未来シート3回使用後未来レポート1回使用。
51	小⑱	個人	小学校	「主体的に問題解決する子どもを育てる探究的な学習(2年次)—汎用的な資質・能力と各教科等の資質・能力を育成する学習の在り方—」	H30	探究的な学習のプロセスを基盤とし、探究的な学習の充実を図る。キャリア進路ノートとして未来シート3回使用後未来レポート1回使用。

した上で、「発展性の程度」を「内省がない『まとめ』」「内省を伴う『まとめ』」「内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』」の3つに分けた。また、縦軸の「継続性」は実践の時間数の違いから「単発」「数時間」「学期内」「学年内(学期を超える)」「学年を超える」「校種を超える」で6つに分けた。そして、この2つの軸を基に横軸が3列、縦軸が6列に分けた18ブロックの細分化した図表を作成した。また、座標のX軸では「学期内」と「学年内(学期をまたぐ)」の間に横軸を取ることで時間的経過を大きく二分し、実践研究・報告書の継続性の違いを把握しやすくした。縦軸の「発展性の程度」は、「内省がない」ものと「内省がある」ものとの違いをはっきりさせるために、「内省がない『まとめ』」と「内省を伴う『まとめ』」の間に縦軸を設定した。こうして作成した図表内に、分析した実践研究論文・報告書

の内容の違いを「学びの時間的展望」を表したバブルで表示した。「学びの時間的展望」から実践を見た場合、過去、現在、未来のいずれか1つの時制で行った実践、過去—現在、現在—未来、過去—未来のいずれかの2つの時制に渡って行った実践、過去—現在—未来の3つの時制に渡って行った実践に分けられる。そこで、1つの時制での実践を一番小さなバブルで、3つの時制に渡る実践を一番大きなバブルで、2つの時制に渡る実践をその中間のバブルで表現して、座標上内に表示した。

表2は、座標軸とそこに表すバブルを決めるにあたり細分化した「発展性の程度」「継続性」「時間的展望」の基準である。図2、図3、図4は表2で示した基準に基づいて分析対象を分析した結果を小学校、中学校、高等学校別に座標にブロックした図である。

表2 座標軸等の基準に関する説明

	1 発展性の程度	意味・視点・考え方	
横軸	内省がない「まとめ」	学習の対象、内容のまとめの記述や、記述項目しか確認できない。	
	内省を伴う「まとめ」	学習の対象、内容のまとめに感想・気づき・自分なりの価値の付与をもった気付きがあるような記述や記述項目は確認できるが、それを新たな学びにつながるような記述や記述項目が確認できない。	
	内省を伴う「まとめ」と「つなぎ」	学習の対象、内容のまとめには感想・気づき・自分なりの価値の付与をもった気付きがあるような記述や記述項目が確認できる。また、新たな学びにつながる記述や記述項目で、まとめて行われた内省が連関していることも確認できる。	
	2 継続性の程度	使用するシートの特性	
縦軸	単発	継続性の乏しいシート	
	数時間		
	学期内		
	学年内(学期を超える)		
	学年を超える		
	校種を超える	校種の違いを見据え、学習の関連性を考慮したシート	
	3 時間的展望の程度	時制の数の違い	対象とする時制
座標内	一番小さなバブル	1つの時制での実践	「過去」、「現在」、「未来」のいずれか
	真ん中の大きさのバブル	2つの時制での実践	「過去—現在」「現在—未来」「過去—未来」のいずれか
	一番大きなバブル	3つの時制での実践	「過去—現在—未来」

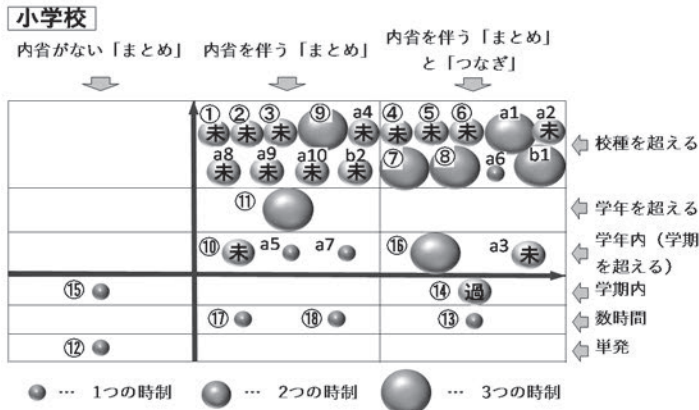


図2 継続性・発展性・時間的展望を軸とした分類 (小学校30件)

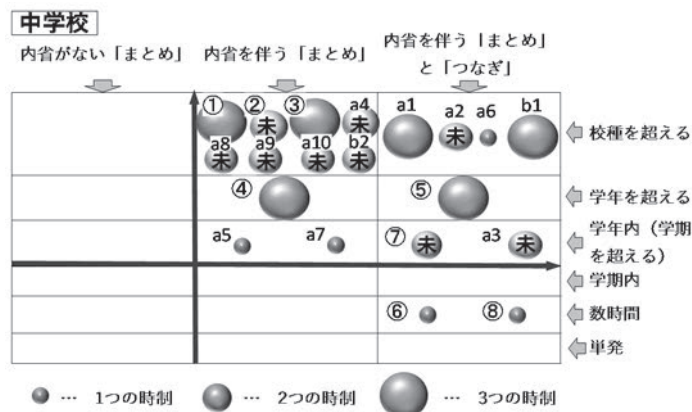


図3 継続性・発展性・時間的展望を軸とした分類 (中学校20件)

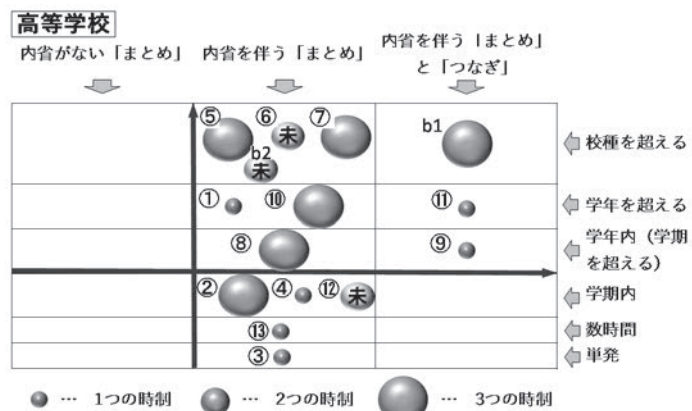


図4 継続性・発展性・時間的展望を軸とした分類 (高等学校15件)

#### 4.1.3 分析結果と考察

小学校 30 件、中学校 20 件、高等学校 15 件の実践研究論文等から分析結果を以下に示す。これに先立ち、図の見方の留意点から示すことにする。1つ目は、1つの校種だけではなく、2つ、あるいは3つの校種の実践を記載した実践研究論文が存在したことより、それぞれの図に重複してプロットした(図2、図3のa1~a10、そして、図2、図3、図4のb1~b2)。また、1つの校種のみの実践研究論文で校種を超えて行う実践

を示唆した内容のものとは区別した。2つ目は、「真ん中の大きさのバブル」について、「過去-現在」は「過」で示し、「現在-未来」は「未」と表示した。

以下に分析結果を示す。学びの継続性については、「校種を超える」が際立って多いことがわかる(小 18/30、中 12/20、高 5/15、全体的には重複を除いても 47.1% (24/51))。ポートフォリオの「記録し蓄積する」という性質上、ある程度以上の期間が必要になり、短い時間での実践は極めて少ない。また、小・中学校や小・中・高等学校のように校種連携を当初から計画し取り組んでいる内容が示されている研究実践論文も存在することから、校種連携への意識の強さを示す傾向が表れている。

学びの発展性については、「内省がない『まとめ』」がほとんどなく、大部分が「内省を伴う『まとめ』」、「内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』」に含まれる。また、「校種を超える」かつ「内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』」のブロックでは、小学校で 30.0% (9/30)、中学校で 20.0% (4/20)、高等学校で 6.7% (1/15) であり、一定数の事例は見受けられるものの、特に、高等学校では、「内省を伴う『まとめ』」のブロックに属する事例が圧倒的に多いことも含め、学びの発展性については、全体的にはまだまだ発展する余地が残されているといえよう。

学びの時間的展望については、全校種を通して、「現在」に関わる 4 種類、つまり、「現在」「過去-現在」「現在-未来」「過去-現在-未来」にしか該当しなかった。「現在」を起点とした時制の往還により、内省を深める試みが示されている。「真ん中の大きさのバブル」については、ほとんどが「現在-未来」で「過去-現在」は 1 件だけであった。全体としては、重複を除くと、「一番大きなバブル」と「真ん中の大きさのバブル」はともに 35.3% (18/51)、「一番小さなバブル」は 29.4% (15/51) であり、ほぼ同程度であった。

次に、小・中・高等学校の校種別では、それぞれの図に特徴が表れている。小・中学校では、「一番大きなバブル」と「真ん中の大きさのバブル」がやや右寄りの上部に多く位置している。一方、高等学校では、「一番大きなバブル」が中央の上部に多く位置していることがわかる。つまり、小・中学校では、「校種を超える」、「内省を伴う『まとめ』」または「内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』」、そして、2つあるいは3つの時制を往還した実践論文等が多く、高等学校では、「学年を超える」以上の継続性で、「内省を伴う『まとめ』」、そして、3つの時制の往還を中心にした実践論文等が多いことを示している。

以上より、特に、小・中学校においては、継続した学びを意識した取り組みが進んでいる。その一方で、発展性については、「内省を伴う『まとめ』」で留まっている事例が全校種で多く存在する。また、時間的展望については、1つの時制での実践が全体で3割近くもあり課題が残る。

#### 4.2.1 「学びの評価」と「学びの発展性」の連関から見るポートフォリオの現状

「学びの評価」として「評価者数の程度」を縦軸に、「学びの発展性」として「発展性の程度」を横軸にした座標平面を設定し、2つの関係の類型化を図った。具体的には、「発展性の程度」の規準はそのままに、「評価者数の程度」は評価者の立場の違い（自分、仲間、教師、保護者を含む他者）を基に評価に加わった立場の違いの数で分析を行った（1から4つの立場まで）。紙幅の都合上、「評価者数の程度」は出現した立場のみを表示する。結果をまとめたものが図5、6、7である。

内省がない『まとめ』	内省を伴う『まとめ』	内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』	
⑮		a3	「自分、仲間、教師、他者」
	a8 a9 a10	a1 a2 b1	「自分、教師、他者」
	① ② ③ ⑨	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	「教師、他者」
	b2 a4 a5	a6	「自分、教師」
			「自分、仲間」
			「自分、他者」
⑫	⑩ ⑪ ⑬ ⑭ a7	⑬ ⑯ ⑭	「自分」
			「教師」

図5 発展性・評価を軸とした分類（小学校30件）

内省がない『まとめ』	内省を伴う『まとめ』	内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』	
		⑤ a3	「自分、仲間、教師、他者」
	a8 a9 a10	a1 a2 b1	「自分、教師、他者」
	① ② ③	⑦	「教師、他者」
	b2 a4 a5	a6	「自分、教師」
		⑧	「自分、仲間」
			「自分、他者」
	④ a7	⑥	「自分」
			「教師」

図6 発展性・評価を軸とした分類（中学校20件）

内省がない『まとめ』	内省を伴う『まとめ』	内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』	
			「自分、仲間、教師、他者」
		b1	「自分、教師、他者」
	⑤ ⑥ ⑦		「教師、他者」
	b2		「自分、教師」
	③ ⑬		「自分、仲間」
	① ②		「自分、他者」
	④ ⑧ ⑩ ⑫	⑨	「自分」
		⑪	「教師」

図7 発展性・評価を軸とした分類（高等学校15件）

#### 4.2.2 分析結果と考察

「評価者数の程度」で取り扱った他者は、小・中・高等学校のいずれにおいても、保護者しか確認できなかった。仲間、教師以外で学習者をよく知る人物ということで保護者が選ばれており、他者は保護者以外、現状では学校は想定していないことがわかる。

「学びの評価」と「学びの発展性」の連関から見ると、小・中・高等学校いずれも「発展性の程度」として見た「評価者数の程度」で「内省がない『まとめ』」と「内省を伴う『まとめ』」のポートフォリオでは、小学校の⑮の例を除き、1つの立場か2つの立場で構成されている（小15/19、中8/11、高12/12）。学習者が自己の学びを評価・判断する場合、その妥当性を検証するリソースは学習者個人だけでは不足すると考えられるが、「内省がない『まとめ』」と「内省を伴う『まとめ』」のポートフォリオを確認してみると、学習者の内省結果を教師あるいは保護者が確認する程度に留まっていた。こうした事実からも、「評価者数の程度」が「内省がない『まとめ』」と「内省を伴う『まとめ』」の段階のポートフォリオは、「学びの評価」を学習者が行った内省結果を教師、保護者が追認する意味合いで位置づけている傾向にあると言える。

これに対して、「発展性の程度」が「内省を伴う『まとめ』」と『つなぎ』段階まで来ているポートフォリオでは「評価者数の程度」の立場が3つか4つの立場で行っている割合が小4/13、中5/9、高1/3と、「内省がない『まとめ』」と「内省を伴う『まとめ』」の小4/17、中3/11、高0/12に比べて多い。内省を自己の学びのまとめのみならずと新たな学びへのつなぎことに役立てることを考慮したポートフォリオでは、学習者が内省を深めるために、様々な立場からその妥当性を図り、評価・判断できるように必要なリソースを増やす仕掛けがポートフォリオに構築されていると言える。すなわち、学習者の学習のために行う「学びの評価」と「学びの発展性」の連関を考慮している実践研究ほど、使用するポートフォリオにおいて「学びの評価」の妥当性を担保するために多数の立場からの評価を受けることができるような仕掛けを準備し、作成している傾向があると言える。

しかし、「評価者数の程度」の立場が3つか4つの立場で行い、「内省を伴う『まとめ』」と『つなぎ』ポートフォリオの割合は全体的には少ない。全体的には、「学びの評価」と「学びの発展性」を連関させる仕組みはまだ十分ではない状況にあると言える。また、小学校⑮のように「内省がない『まとめ』」のポートフォリオでも「評価者数の程度」で4つの立場のものがある。⑮は、児童の取り組みをできるだけ多くの身近な人々に認めてもらえるように意図したポートフォリオであったが、「学びの発展性」には寄与していない。こうした結果を踏まえて、今後は「学びの評価」と「学びの発展性」の連関の重要性を明らかにし、学校現場に提示する必要があると考える。



## 5 まとめと今後の課題

2016年度以降報告されたキャリア教育研究で用いられたポートフォリオを見ると、校種を超えた「学びの継続性」を目指したものが一番多く、少なくとも2校種間の連関を意識したポートフォリオになっていた。また、学びのまとめと新たな学びへのつなぎまで内省を伴う、いわゆる深い学びを実現した「学びの発展性」を図るポートフォリオは増えているが、全体から見るとその数は少ない。特に、教科等で行った学びを内省し、自己の学びをまとめてつなぐことが期待できる中・高校生に対応できるようなポートフォリオは、まだ十分に準備されている状況にないことがわかった。さらなる開発が必要である。「学びの時間的展望」の視点で見ると、校種を超える「学びの継続性」を実現しているポートフォリオの多くは、過去—現在—未来と3つの時制から学びを内省することができるように構成されている。また、こうしたポートフォリオの「学びの発展性」は、少なくとも「内省を伴う『まとめ』」まで実現できている。「学びの時間的展望」は「学びの継続性」「学びの発展性」と連関していると言える。以上のことから、「学びの継続性」「学びの発展性」「学びの時間的展望」はそれぞれ連関し、ポートフォリオを用いて内省を通じて学びをまとめ新たな学びにつなぐことを図るためには、少なくともこの3つを構成要素にポートフォリオを作成することが必要であると言えよう。

また、「学びの発展性」と「学びの評価」との関係からポートフォリオを見ると、その数まだ少ないものの「発展性の程度」において「内省を伴う『まとめ』と『つなぎ』」を実現するポートフォリオでは、学習者が自ら学びの内省を行う際の妥当性を図るリソースとして大勢の人の関わりを図る仕掛けができています。「学びの評価」で学習者以外の「仲間、教師、他者(保護者)」といった立場から、できるだけ多くの者が学習者の学びのための評価に関わる仕掛けが必要であることがわかる。すなわち、「学びの評価」は「学びの発展性」に連関するとともに、「学びの評価」はポートフォリオに不可欠な構成要素の1つであると言える。

本研究では、実践研究論文・報告書にあったポートフォリオを検討したに過ぎず、授業事実を分析したものではない。実際に学校で行われている授業事実との差異も予想される。キャリア教育に用いるポートフォリオのあり方を示すためには、今回明らかになった「学びの継続性、発展性、時間的展望」と「学びの評価」という4つの構成要素を基にしたポートフォリオが、実際の授業でどう活用されているのか、授業事実から検討する必要がある。また、「評価の学び」と、「学びの発展性」との連関において、学びのまとめ、学びのつなぎの一連の学習過程のどの時点で「学びの評価」を行えばよいのか、それは学習過程の最後に位置づけるのか、学習過程の途中にも組み込む必要があるのかなど「学びの評価」の活用のあり方についても検討が必要である。今後は、ポートフォリオを用いながら教科等

の学びを特別活動の時間を中核にまとめ、新たな学びにつなぐことができた授業データを多く収集し、教育方法学の視座からポートフォリオに必要な構成要素としての「学びの継続性、発展性、時間的展望」と「学びの評価」の有用性を明らかにしたい。

本研究は、JSPS 研究費 JP19K23286 の助成を受けたものです。

※1 文部科学省ホームページ「都道府県・政令指定都市・中核都市センター等」[www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kenkyu/1225078.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kenkyu/1225078.htm) (最終アクセスR1.11.28)

### 【参考・引用文献】

- 秋田県総合教育センター (2018)「あきたでドリーム活用例 由利本荘市立由利小学校」
- 池戸美菜 (2018) 長期研究員報告書「義務教育9年間を見通し教科の系統性を踏まえた学習指導の研究—理科における『系統性を踏まえた学習指導分析シート』の活用—」神奈川県立総合教育センター長期研究員報告、p17:55~60
- 岩城祥子 (2018)「自己実現を図ろうとする態度を育成するキャリア教育の展開—学校の教育活動全体をつなぐ『キャリアノート』の活用を通して—」広島県立教育センター長期研修生研究報告
- 胡田裕教・清水克博・高綱睦美・鈴木絵子・角田寛明・柴田好章 (2018)「初等中等教育におけるポートフォリオを活用したキャリア教育の現状と課題—実践の継続性・発展性の可視化を目指して—」『生涯学習・キャリア教育研究』第14号、pp.13-25.
- 胡田裕教 (2018)「高等学校普通科におけるキャリア発達を促すカリキュラムに関する研究」日本キャリアデザイン学会第15回研究大会・総会資料集、pp.101-104
- 加藤俊介 (2017)「各教科等における探究的な学習の展開(1年次)—主体的に問題と向き合い、学びを深める学習—」京都市立総合教育センターF 0206 報告 586
- 加藤俊介 (2018)「主体的に問題解決する子どもを育てる探究的な学習(2年次)—汎用的な資質・能力と各教科等の資質・能力を育成する学習の在り方—」京都市立総合教育センターF 0201 報告 591
- 川崎市総合教育センター (2016)「『自己を生かし、豊かな学級・学校生活をつくっていく特別活動—『キャリア在り方生き方教育』へつなげる、自分づくり・仲間づくり・生活づくりを目指した実践研究—」川崎市立総合教区センター研究紀要第30号、p85-92.
- 京都市総合教育センター (2015)「中学校 生き方探究(キャリア)教育主体的にキャリア形成を図り、自学自習できる子どもを育てるための『将来を見通した学びを考える力』を育む活動プログラム例」
- 熊本県立教育センター (2017)「一人一人が未来の創り手となる豊かな学びの創造—中学校国語科における学びがつながることを目指した『問い』と『振り返り』の工夫を通して—」平成

## 29 年度研究紀要

- 群馬県教育委員会 (2017)「実践編小中学校の連携を深める取組」、キャリア教育ガイドブック『ぐんまのキャリア教育』,p7-10
- 高知県教育センター (2016)「キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善についての研究—協働的に課題を解決する経験を積むことで、児童の自己決定力を育成する—」平成 28 年度研究紀要、p48-59
- 高知県教育センター (2016)「キャリア教育の充実に向けた教育課程や指導方法の工夫改善についての研究—普通高校におけるキャリア教育の推進及び充実に向けて—」平成 28 年度研究紀要、p60-71
- 国立教育政策研究所 (2016)「国研ライブラリー資質・能力理論編」、東洋館出版社
- 小林寛子 (2018)「知的障害のある生徒のキャリア発達を支援する取組の一考察-「学習活動に『意味付け』をする」ホームルーム活動の対話と生徒のための 10 分会議を通して-」千葉県総合教育センター特別支援高等部ホームルーム学習指導案w18-0295
- 滋賀県総合教育センター (2017)「小学校版キャリアノート『夢の手帳』(児童用)」
- 滋賀県総合教育センター (2017)「小学校版キャリアノート『夢の手帳』(中学校生徒用)」
- 滋賀県総合教育センター (2017)「小学校版キャリアノート『夢の手帳』(高等学校生徒用)」
- 進藤亮輔 (2017)「『課題対応能力』を育むキャリア教育の展開—自己との対話を促す振り返りシートを取り入れ、地域教材を活用した単元構成の工夫を通して—」広島県立教育センター普及型個人研究
- 大工恭奈 (2019)「生徒の意欲を引き出す『キャリア教育』を意識した実践研究—『ホーム担任』『授業者』双方の立場から—」金沢大学大学院修士課程修了者研究報告 (概要)
- 竹内玲菜 (2016)「夢を越えて生き方を考える—『総合的な学習の時間』を中心とした小学校でのキャリア教育の取り組み—」相模原市教育実践研究論文
- 千葉市教育センター (2017)「小中 9 年間を見据えたキャリア教育の推進に向けて—キャリア教育ガイドブックの改訂—」平成 29 年度研究紀要
- 永井博美 (2017)「児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方—学校の特色を生かした『キャリアノート』の効果的な活用を通して—」広島県立教育センター普及型個人研究
- 中町夕子 (2016)「自ら問いを立て 学び続ける力の育成 (2 年次—学校図書館との対話を通して (中学校社会科の授業を例に)—」京都市立総合教育センター F 0701 報告 583.
- 新潟県立教育委員会 (2016)「夢ナビカルテ 資質・能力シート (小学校低学年版、中学年版、高学年版、中学校版、高等学校版)」
- 新潟県立教育委員会 (2016)「夢ナビカルテ 活動記録シート (小学校低学年版、中学年版、高学年版、中学校版、高等学校版)」
- 新潟県立教育委員会 (2016)「夢ナビカルテ 夢ナビシート (小学校低学年版、中学年版、高学年版、中学校版、高等学校版)」
- 西岡加恵 (2003)『教科と総合に活かすポートフォリオ評価法』

## 図書文化

- 橋村由希子 (2019)「自己の生き方をみつめる教科横断型キャリアラムの実践」金沢大学大学院修士課程修了者研究報告 (概要)
- 兵庫県教育委員会 (2016)「キャリアノートモデル (小学校版、中学校版)」
- 兵庫県教育委員会 (2016)「キャリア教育の推進—自立して未来に挑戦する ひょうごっ子!〜」小・中学校教師用指導資料
- 兵庫県教育委員会 (2017)「キャリアノートを活用したキャリア教育の推進—推進地域における 2 年間の研究の成果と課題から—」平成 27・28 年度キャリアノート活用に関する研究事業報告書
- 兵庫県教育委員会 (2017)「キャリアノートを活用したキャリア教育の推進」平成 27 年度キャリアノート活用に関する研究事業中間報告
- 兵庫県教育委員会 (2019)「特別活動を要としたキャリア教育充実事業中間報告」
- 広島県立教育センター (2018)「学校の特色を生かした『キャリアノート』の効果的な活用—高等学校での取組から—」広島県立教育センター報告書型
- 廣瀬 志保 (2018)「探究プロセスを意識した授業改善に関する研究—高校の総合的な学習の時間における単元計画の作成—」山梨県総合教育センター研究紀要(H29),p1-6
- 古土井享子 (2016)「総合的な学習の時間において主体的な学びを実現する指導の工夫—探究のプロセスの中で見通しをもたせる振り返りシートの活用を通して—」広島県立教育センター普及型個人研究
- 北海道立教育研究所 (2017)「高等学校における探究活動の充実に向けて—進学校における総合的な探究の時間の実施モデル— (中間報告) 北海道立教育研究所平成 29 年度研究紀要
- 北海道立教育研究所 (2018)「高等学校における探究活動の充実に向けて—進学校における総合的な探究の時間の実施モデル— (最終報告) 北海道立教育研究所平成 30 年度研究紀要
- 北海道教育委員会 (2018)「マイノート小学校低学年版、小学校中学年版、マイノート小学校高学年版、マイノート中学校版、マイノート高等学校版」
- 堀 哲夫 (2013)「一枚ポートフォリオ評価 OPPA」東洋館出版社
- 又吉貴裕 (2017)「自らの意見を形成し表現できる力を育む指導の工夫」沖縄県立総合教育センター第 63 集研究集録
- 水野昭善 (2016)「進学希望者が多い普通科高校におけるキャリア教育の充実に向けて—入学から分離選択までの進路指導—」平成 28 年度実務研修員報告書
- 源田裕久、谷口英太、平山孝次 (2016)「『アクティブ・ラーニング』の視点を入れた授業実践を通じたキャリア形成支援の有効性—小学校の算数科授業を事例にして—」京都府総合教育センター研究紀要第 6 集
- 文部科学省 (1999)中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」
- 文部科学省 (2011)中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)」
- 文部科学省 (2016)中央教育審議会「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて (報告)」